

**令和8年度 静岡県立するが視覚総合特別支援学校
第1回 学校運営協議会 議事録**

1. 開催概要

- 日時：2026年6月4日(木) 午前9時00分～11時30分
- 場所：静岡県立するが視覚総合特別支援学校
- 出席者：副会長、地域コーディネーター、他委員2人、校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事4人、教務主任

2. 辞令伝達および役員選出

- 会長：大学 教授
- 副会長：民間企業 役員
- 地域コーディネーター：交流校 PTA 役員・保護者代表
- ※ 全会一致で承認された。

3. 協議Ⅰ：学校経営方針および各学部の取組報告

- 学校経営方針(校長)：
 - 教育目標：「共に輝き 未来に向かって 心豊かに成長する」。
 - 4つの柱：「安心(笑顔と健康)」、「授業力(専門性)」、「連携(地域社会)」、「チーム学校(教職員の笑顔)」。
 - キーワード：「輝き」(安心の輝き、学びの輝き、つながりの輝き、チームの輝き)。
 - 目指す姿：自他を尊重し、挑戦する心や感動する心を育み、心理的安全性の高い新しい学校の形を目指す。
- 各学部の取組：
 - 幼稚部・小学部：9年間を見通した支援。初めて絵の具に触れる、自らスプーンを使うなどの個別の成長を重視。
 - 中学部：本年度は1名が在籍。拡大読書器や単眼鏡などの視覚補助具の活用習得、および歩行指導(バス利用等)に注力。
 - 高等部(保健医療科)：50～60代の生徒3名。あん摩マッサージ指圧師の国家資格取得を目指し、模型を用いた解剖学や実技を学習。
 - 高等部(普通科・知的障害部門)：1期生23名。学校生活にも慣れ、生徒も「楽しい」と通学。清掃活動(作業学習)等を通じた社会参加準備。
 - 寄宿舍：静岡聴覚特別支援学校の生徒と合同運営(計5名在籍)。基本的な生活習慣の確立を目指す。

4. 質疑応答・委員意見(詳細)

- **地域コーディネーター:**
 - 新しい学校になり、先生方の人数も増えた。先生方の明るい雰囲気は子供たちに伝わるので、目標にある『チーム学校』を大切に、笑顔の絶えない学校にしてほしい。
- **委員:**
 - 年少児から 60 代までが在籍している点は非常に特色があり、県内、あるいは全国的にも珍しいのではないかと。長い目線での学部ごとの取り組みや、中学部から他校へ進学する際の配慮など、多様なニーズに応える難しさと重要性を感じた。
- **委員:**
 - 子供が今年度から寄宿舎に入ったが、家よりも楽しいと言うほど充実している。視覚補助具の使い方など、専門的な部分を丁寧に育てていただいていることに感謝している。
- **副会長:**
 - 『輝き』というキーワードが各学部にも一本筋が通って根付き始めている。子供たちが『この学校はどんな学校?』と聞かれた際、自然に『輝いている学校』と言えるような姿を目指していきたい。
- **承認:**
 - 令和 8 年度学校経営計画は、委員により承認。

5. 協議Ⅱ:校内参観およびグループワーク報告

1. 輝きタイム(チーム学校推進の取組)

輝きタイムとは、教職員同士の対話の時間と、幼児児童生徒による校内交流の時間の総称。

- **目的と目指す姿:**
 - 2つの教育部門(視覚障害・知的障害)の全教職員が全ての幼児児童生徒について共通の話題で話せる関係性を築くことを目指す。
 - 教職員の関係の良さを指導に生かし、子供たちが日常的に自然に関わり合える場面を増やすことを目的としている。
- **教職員の活動:**
 - 4月のスタート時には、まず職員同士の交流から始めた。回を重ねるごとに具体的な交流案(給食時の放送でのチーム紹介や、給食を持ち寄った交流など)を話し合っている。
- **幼児児童生徒の交流(縦割りチーム):**
 - 全教職員・幼児児童生徒が「青・緑・黄」の3チームに分かれて活動。
 - 5月に第1回の輝きタイム実施。
 - 高等部(保健医療科)の生徒が他の学部の子供たちと交流するなどの様子も見られた。

2. 校歌作成プロジェクト

校歌を幼児児童生徒・教職員・保護者をはじめ、学校に関わってくれる人全員で協力して作り上げるプロジェクト。

- **制作方法:**

- 幼児児童生徒、保護者、教職員、学校に関わる地域の方々からキーワードを集め、それを元に歌詞を構成。
- 作曲・制作協力は、有名な作詞作曲家である新沢としひこ氏(代表作「世界中のこどもたちが」など)に依頼。

- **これまでの経過と今後の予定:**

- **保護者:** PTA 総会時に「どんな学校にしたいか」「子供にどうなってほしいか」という思いを書き、模造紙の木に張り付けた。
- **子供たち:** 学校の楽しさや卒業までにやりたいことなどの言葉を募集し、6月の「輝きタイム」に向けて集約。
- **交流:** 新沢氏の曲でダンスを踊るなどして親しみを深める時間を設ける。
- **完成:** 8月上旬に集まった意見を新沢氏に送り、12月のコンサートで新曲として披露・発表する予定。

3. 学校応援団づくり

学校経営計画の柱の一つである「連携」に基づいた取組。

- **活動内容:**

- 保護者を「一番の応援者」とし、地域住民とのネットワークを広げていくことを目指す。
- 地域コーディネーターを中心に、学校を助けてくれるボランティアや協力者の輪を広げる活動を行いたい。

- **現在の状況と展望:**

- 既に近隣の方から「ボランティアをやってみたい」という申し出の電話が入るなど、具体的な繋がりが始まっている。
- 12月に予定されている校歌披露コンサートには、保護者のほか、地域の方々にも声をかけ、交流の場とすることを検討。

3. グループワーク(語り合い)での主な意見:

- **学校の強み:** 年齢や障害の枠を超えた「繋がり」の強さ。新たな自分や相手を知るチャンスがあること。
- **期待・希望:** 障害を越えて楽しめる「ニュースポーツ」の考案。自信を失っていた子が安心できる場所(希望の場所)としての継続。

6. 閉会

- 校長より、対話を通じた「輝く学校運営協議会」への意欲が語られた。
- **次回予定:** 第2回 11月5日(木)、第3回 2月25日(木)